

誰が、いつインターネットを荒らすのか？

ネット荒らしに及ぼす Dark Tetrad 傾向と社会的孤立の影響

○増井啓太

(追手門学院大学心理学部)

キーワード：ネット荒らし、Dark Tetrad、社会的孤立

The effects of Dark Tetrad and social isolation on the internet trolling

Keita MASUI

(Faculty of Psychology, Otemon Gakuin Univ.)

Key Words: internet trolling, Dark Tetrad, social isolation

目的

インターネットは、今日の私たちの生活に欠かすことのできないものになりつつある。総務省の調査では、インターネットの人口普及率は1997年以降増加の一途をたどり、2016年末には83.5%であったことが報告されている(総務省, 2017)。インターネットの普及に伴い、インターネットが私たちに及ぼす影響について多くの研究が行われるようになった。とりわけ、近年ではインターネット上の問題行動に関する研究がひろく注目を集めている。例えば、「インターネット上で他人を意図的に挑発し、争いや感情的な反応、コミュニケーションの分断を引き起こす欺瞞的で破壊的な行為」と定義されるインターネット上の荒らし行為(以下、ネット荒らしとする)に関する研究では、ネット荒らしを行いやすい人の性格特性として Dark Tetrad (マキャベリズム, サイコパシー, 自己愛性傾向, サディズム傾向を含む反社会的なパーソナリティ特性の総称)との関連が指摘されている(Buckles et al., 2014; Sest & March, 2017)。本研究ではこれらの性格特性に加えて、ネット荒らしに影響を及ぼす要因として社会的孤立に着目する。社会的孤立とは他者や地域との接触がほとんどなく、関係が希薄している状態のことで、攻撃行動を引き起こす要因の一つとされる(DeWall & Twenge, 2013)。以上のことより本研究では、Dark Tetrad と社会的孤立がネット荒らしに及ぼす影響を調べることで、誰が・いつネット荒らしを行うのかを検討する。

方法

調査対象者：インターネット調査会社に委託し、調査会社の登録モニターのうち男女545名(男性264名, 女性281名)を調査対象とした。平均年齢は46.6歳(SD=13.4)であった。尺度：本研究では以下の尺度を用いた。

Dark Tetrad 日本語版 Dark Triad Dirty Dozen (田村他, 2015) と日本語版 Varieties of Sadistic Tendencies (下司・小塩, 2016) を使用した。それぞれ12項目と16項目から構成された尺度で、5件法で回答する尺度であった。

社会的孤立 日本語版 UCLA 孤独感尺度(第3版)(舛田他, 2012)を用いて社会的孤立の程度を測定した。20項目、5件法で回答するものであった。

ネット荒らし Sest & March (2017) が作成した Global Assessment of Internet Trolling Revised (GAIT-R) を原作者の許可のもと日本語に翻訳して使用した。GAIT-R はネット荒らし行為とそれに関連する考え方や感情を測定する8項目から構成された尺度で、5件法であった。

この他に、デモグラフィック変数とインターネットの利用時間(1日と1週間)を尋ねた。

結果

ネット荒らしに及ぼす Dark Tetrad と社会的孤立の影響を検討するために、Dark Tetrad のそれぞれの特性の得点の高低と社会的孤立得点の高低および2変数の交互作用項を説明

変数、GAIT-R 得点を基準変数とした階層的重回帰分析を実施した。

分析の結果、Dark Tetrad の各特性の主効果と社会的孤立の主効果が有意であった($\beta_s > .24, t(539) > 5.2, ps < .001$)。Dark Tetrad 傾向が高いほど、社会的に孤立している人ほど GAIT-R 得点が高かった。また、マキャベリアニズム×社会的孤立、サイコパシー×社会的孤立、サディズム×社会的孤立の交互作用も有意であった($\beta_s > .10, t(539) > 2.4, ps < .05$)。マキャベリアニズム×社会的孤立の交互作用について単純傾斜検定を実施したところ、マキャベリアニズム傾向の高い人のうち社会的に孤立している人は、孤立していない人よりもネットをより荒らす傾向にあった(Figure 1)。サイコパシー、サディズムにおいても同様の交互作用効果が確認され、サイコパシーが高く、かつ社会的に孤立している人、ならびにサディズム傾向が高く、かつ社会的に孤立している人はネット荒らし傾向が高いことが示唆された。一方で、自己愛性傾向×社会的孤立の交互作用は有意ではなかった。

なお、これらの交互作用は年齢とインターネットの利用時間を統制した後でも有意であった。

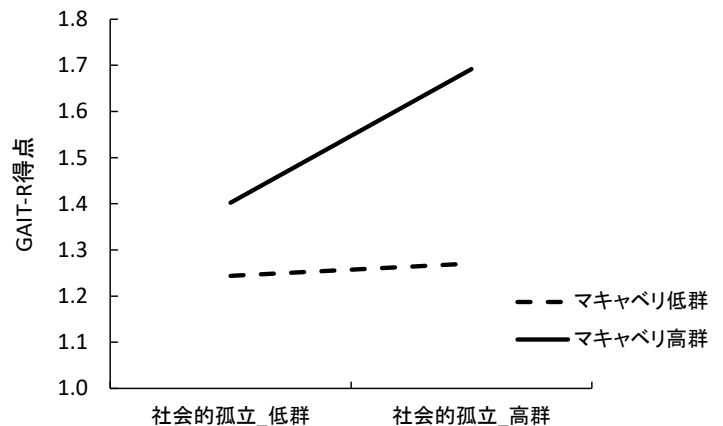


Figure 1 GAIT-R 得点に及ぼすマキャベリアニズムと社会的孤立の影響

考察

本研究の結果、Dark Tetrad 傾向の高い人ほど、社会的に孤立している人ほどネット荒らしを行いやすいことが示された。さらにそれらの有意な交互作用が認められ、Dark Tetrad 傾向が高く、かつ社会的に孤立している人が最もネットを荒らす傾向にあることが明らかとなった。本研究で得られた結果はいずれも諸先行知見(Buckles et al., 2014; Sest & March, 2017) と対応したものであった。

本研究で示唆された知見をもとに、今後はネット荒らしを抑制するためのメカニズムの解明が望まれる。